

特集 2

男女共同参画の視点から、 防災対策を考えよう

—いつ起こるかわからない災害に備えて—

地域には、高齢者、障がいのある方、妊産婦、乳幼児などの災害弱者と呼ばれる方をはじめ、性別や年齢、生活習慣などが異なるさまざまな方が暮らしています。

しかし、これまでの災害では、防災対策において男女共同参画の視点が重要視されていなかったため、被災者の方の中には、避難生活を送るうえで「女性の要望や意見がとりにくい」「女性が必要としている物資が不足していても要望しにくい」などさまざまな困ったことが起こりました。

そのため、防災対策を実施するにあたっては、男女が互いに助け合う男女共同参画の視点で考えることがとても重要です。

また、緊急な災害の時に、男女が共同して災害復興に対応できるよう、常日頃から家庭や地域、職場などで男女共同参画を実践し、男女がともに支え合う地域づくりに努めましょう。



男女共同参画の視点で考える防災対策

1 生活環境（プライバシー、衛生など）

- 一人暮らしの女性、高齢者、障がいのある方、乳幼児のいる家族などの状況に応じて、間仕切りを設置するなど快適な居住スペースを確保する。
- 乳幼児のいる家族に配慮した授乳スペース・育児スペースを確保する。
- 女性用洗濯物干し場を確保する。

2 安全・安心

- 街灯、夜間照明を設置する。
- 仮設トイレは、女性や子どもの安全・安心を配慮した場所に設置する。
- 防犯ブザーの貸し出しや、巡回をする。

3 物資の管理

- 避難者の性別、年齢層別の把握を早い時期に行い、その情報を支援に活用する。
- 女性用品（下着や生理用品など）のニーズ把握は、女性が女性に対して実施する。
- 物資担当者に女性も参加する。
- 備蓄物資の見直しに女性、子ども、高齢者、障がいのある方など多様なひとの視点をいれる。

4 炊き出し・介護・子育て

- 子育て・介護中の女性・男性も支援活動に参加しやすいよう、一時預かりや出張保育などを実施する。
- 学習支援ボランティアを活用する。
- 平時の訓練から、炊き出しなどの男女の役割を見直す。

5 心身の健康

- 女性医療従事者を派遣する。
- イベントの開催や誰もが利用できるフリースペースを確保し、心身のリフレッシュやストレス解消の場を確保する。
- 災害による失業などからアルコール依存症や孤立化がおこりがちな男性被災者へのメンタルケアや見守りを行う。

6 意思決定の場への女性の参画

- 自治会役員に女性を増やし、自主防災組織の意思決定の場へ女性が参画しやすい環境をつくる。
- 防災会議や審議会、自治会、PTAなどさまざまな団体で女性リーダーを増やす。

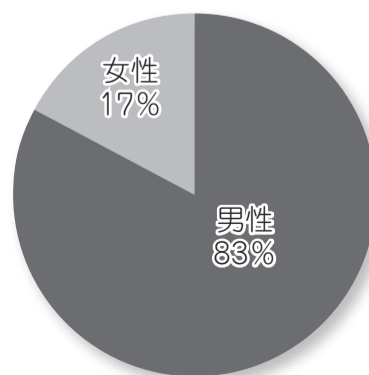
防災・復興分野における女性の参画状況（H25.4.1 現在）



第2回 八潮市防災会議（平成25年5月28日）

会議では、地域防災計画の見直しについて6人の女性委員から活発な意見が出されました。新しい計画は、平成26年3月公表予定です。

八潮市防災会議における女性委員の割合



消防団における女性消防団員の割合

